分娩室(LDR)
助産師
横山　彩佳

無痛分娩について

涼しい秋風に、大きく深呼吸したくなるような気持ちの良い季節となり、木々の葉の色が変わり始め、秋の訪れも目に見えてわかるようになってきました。新型コロナウイルスの影響で大変な状況ではありますが、皆様はお変わりなくお過ごしでしょうか。

福田病院では、入院患者様のご家族の面会の中止やPCR検査の徹底など、病院の在り方がこれまでとは大きく変容しました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響が続く中、福田病院の分娩室(LDR)では、日々新しい生命が誕生しており、患者様の出産のサポートをさせていただいております。

出産の方法も多様化し、当院では2021年2月より、24時間対応の無痛分娩を実施しています。

無痛分娩を選択する患者様も年々増加しており、「無痛分娩をしてよかったです。」という声を頂いています。

今回は無痛分娩を選択された妊婦さんが分娩室(LDR)に入院され、分娩までどのように過ごしていくのかを紹介します。

無痛分娩とは？

お母さんは、赤ちゃんが産道をくぐりぬけて産まれてくる過程で、子宮が収縮する痛みや、腰や骨盤、外陰部が圧迫される痛みを感じることとなります。これが、陣痛です。

無痛分娩とは、このお産の時の痛みを、麻酔を使って和らげる方法です。「無痛」とは言っても、完全に痛みを取ってしまうと、陣痛に合わせていきむことができなくなってしまうため、ある程度陣痛の感覚が残っている必要があります。全く痛みを感じなくなるわけではありませんが、痛みの程度を和らげることで、穏やかな気持ちで赤ちゃんを迎えることができるようサポートします。

●どんな方が無痛分娩を希望されているのか

- 痛みに耐える自信がない方
- 体力の消耗を最小限にして、産後早期の身体の回復を希望されている方
- 立ち会い分娩ができなくて家族の付き添いがないため不安な方
- 前回の出産時の痛みがトラウマという方
- 無痛分娩で出産をした家族や友人の勧めや、インターネットの口コミを見た方

●福田病院での無痛分娩の流れ

①外来にて無痛分娩希望の申し出があった時点で、無痛分娩同意書をお渡しします

➡

②妊娠26週～34週までに無痛分娩学級の動画の視聴をしていただきます

➡

③妊娠34週～35週で同意書(ご本人及びご家族のサインが必要です)を提出していただき、産科医による診察があります。

➡

④妊娠36週以降で検査(採血及び心電図)を受けていただき、その後麻酔科医の診察があります

➡

⑤妊娠37週以降、お産で分娩室(LDR)へご入院の際に再度無痛分娩の希望と同意書の確認をさせていただきます

➡

⑥お産の進行状況をみながら無痛分娩を行っていきます

●妊婦さんから聞かれる無痛分娩において心配なこと

無痛分娩は、全く痛みを感じないわけではありません。完全に痛みを取ってしまうと、お母さんのいきむ力が入らず分娩が成り立たなくなってしまうので、陣痛に合わせていきむことができる程度にコントロールしていきます。硬膜外麻酔は、麻酔科専門医の管理のもと、妊婦さんとお腹の赤ちゃん両方の様子をモニターでチェックしながら行っていきます。部分麻酔なので、意識ははっきりとあり、いきむことはもちろん、生まれてすぐに赤ちゃんを抱っこすることもできます。

- 麻酔の副作用や後遺症が心配
- 麻酔薬の赤ちゃんへの影響がないか心配
- どれくらいの痛みが取れるのか不安

●無痛分娩の方法

血管確保(静脈点滴)後、生体モニター、胎児心拍監視装置を装着し、ベッド上で横向きになります。腰を丸くした姿勢を取り、背中を消毒後に局所麻酔薬を注射、そこに針を刺し、この針の中に細いカテーテルを挿入していきます。カテーテルが適切に入っていることを確認し、針だけを抜きカテーテルは背中に残したまま背中に固定をします。そこから、麻酔薬を注入します。

麻酔薬が入り、お母さんや赤ちゃんに問題がないことと、痛みが和らいだことを確認した、約２時間後に飲食が可能になります。トイレに歩くことはできないので、ベッド上で管を入れて尿を取らせていただきます。

ポイント!!

エビのように背中を丸くする
できるだけ力を抜く

●当院の無痛分娩件数

分娩室(LDR)での2021年の無痛分娩実施件数は705件、2022年1月～2022年8月までの実施件数は527件でした。無痛分娩で出産された患者様からは、「思った以上に痛みが楽だった。」や「落ち着いて、リラックスして出産ができた」、「産後の回復が前回の出産より早い気がした」といった御意見を頂いています。

最後に

お産の進み方、陣痛の痛みの感じ方はとても個人差があります。そのため、妊婦さんがどの程度の鎮痛を望んでいるのかを丁寧に把握し、妊婦さんが安心してお産ができるよう産科医・麻酔科医と協力をしながらサポートをさせていただいています。無痛分娩が気になる方、また無痛分娩について不安なこと心配なことがあれば気軽にご相談ください。